

第77号

## し ら さ ぎ



## 新年度に向けて

施設長 藤村友弘

新年度が始まりました。去る三月二十七日の理事会にて、二十二年度の事業計画・予算について承認を頂きました。今年度の大きな柱の一つには、新法に移行する第一段階となる障害程度区分判定をしていかなないといけません。その区分判定に向け、数年前から現場の職員は、より正確に支援内容が伝えられ、適正な区分判定が出来るように、研修を重ね、各々努力してきました。判定された区分によって受けられるサービスの内容が変わってくることはご承知の通りです。しかし現状のままの施設運営では限界があります。新たな事業の展開が必要になりますが、職員一丸となりより良いサービスが提供できるように検討を重ねているところです。現在はまだ具体的な事業が決まっていますが、早い時期に決定しそれに向けて準備を進めていきたいと考えています。

先日、札幌の老人施設で火災により利用者の尊い命が失われるという悲惨な事故が発生しましたが、当学園も重度高齢化している中で、他人事ではないと感じています。常日頃から火災の予防を第一に考え支援をすると共に、万一のことを考え夜間の火災を想定した訓練を実施しています。併せて又、スプリンクラーの設置に向け準備を進めているところですが、高額な費用が掛かることが予想されます。できる限り早い時期に設置したいと考えていますが、その実現はもう少し時間が掛

かると思います。区分判定や、スプリンクラーの設置についても行政・関係機関そして保護者の皆様の御理解とご協力が欠かせないと思っておりますので、宜しくお願い致します。

四月一日からは、丹後大宮福祉会のあゆみが丘学園担当理事である、石河良一郎様に事務長としてお世話になっていきます。あゆみが丘学園の現状をより知って頂き、理事会とのパイプを密にすると共に、良き相談役としてお願いしました。今年度の事業を実施するにあたり、強力な人材を補強していただけたと喜んでいきます。事務体制の強化によって、利用者の方へ直接支援する職員、厨房職員もこれまで以上に気を引き締めて業務に取り組みでもらえるものと確信しています。どうか皆さんの温かい目で見守って頂きながら、新たなあゆみが丘学園の歩みにご理解とご協力を切にお願い致します。



# 春爛漫

保護者会長 服部 仁

長かった冬も過ぎ去り、暖かな日差しを受け伸び伸びと過ごせる季節の訪れとなって参りました。…とは言え最近では気温の変化で天候不順な日があります。この分では農作物などへの影響が懸念されます。

さて、自立支援法が施行されてから四年を経過しますが、この法をめぐっては訴訟にまで発展、年毎に基本合意文書に原告団・国側がサインして、知的障害者にも日の目が見えて来たように思えます。応益負担が当初の目的でしたが、考えて見ると障害者に支援費の1割の負担を課すなんてことは言語道断と不信感を抱いていました。前厚労大臣の発想が障害者は預貯金を沢山持っているからとの発想ではなかったのでしょうか。知的障害者などは自分の意志で消費する事は出来ない為、当然、預貯金は増える事になっても不思議で無いのです。再来年に自立支援法に変わる新法が出来ると聞いていますが、障害者虐めの法は止めて欲しいです。自立支援法が施行されたとき、私はこの機関誌「しらさぎ」の投稿で、この法は悪法ではないのかと書きたかったのですが、反社会的と思い、書いたものを抹消したことを覚えています。やっぱり、この結果が出たことは悪法だったんですね！

華頂短期大学 馬場 千春

私は、知的障がいを持つている方とは最近ではほとんど関わりがなく、施設実習というのがとても不安でした。いざ実習が始まると初めは緊張してばかりで、入所者どう関わりたいかばかりで、立ちつくしてしまふこともありましたが、実習生慣れしている入所者は自然と私たちに話しかけてきてくれて、話が聞き取れず戸惑うこともありましたが、とても嬉しかったです。意外とすぐに学園の生活に慣れ、入所者と仲良くなることもできたので、慣れ親しんできた頃に実習が終わっても寂しく感じました。職員の方にはたくさん大切なことを教えて頂きました。実習が終わり、私の中で知的障がいへの見方も変わったし、実習前の自分と少し変わった気がします。あゆみが丘学園の入所者、職員の皆さんのおかげで楽しくてよい施設実習ができました。10日間本当にありがとうございました。

華頂短期大学 足立 志乃

あゆみが丘学園で実習をさせていただくまでは、知的障害者の方と関わる機会がなかったため、不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、そんな不安も1日目を終えたときにはなくなっていました。あゆみが丘学園の入所者の方は優しく、優しく明い方ばかりで、幾度となく笑顔に元気をもらい、優しさに助けられました。毎日が驚きの連続で、入所者の良い所を沢山見つけられたり、入所者同士の相互扶助の関係に感心させられたりと楽しくあつたという10日間でした。あゆみが丘学園のほのぼのとした温かい雰囲気は、入所者同士、職員同士、そして入所者と職員の深い信頼関係が築かれているからこそ感じられるのだと思います。助けてもらってばかりで少しでも役に立つことができたか不安ではありますが、職員の方々のご指導や入所者の方々の優しさのおかげで充実した実習となりました。10日間本当に沢山の適確でわかりやすいご指導ありがとうございました。

# ご挨拶

事務長 石河 良一郎

若草萌えて、野も山もすっかり春の装いになりました。

この度、事務長としての就任にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。

平成20年より社会福祉法人・丹後大宮福祉会の役員をさせて頂いた、だいたいしておりますこと、4月1日より事務長の職を仰せつかることになりました。私自身、障害者の皆さんの施設に直接関わるということは経験もなく、戸惑いながらも、入所者の皆さんが安全で安心して快適な生活のできる施設であることの大切さを再確認しながら、日々の勤務に励んでおります。

これからの施設運営につきましては、職員の皆さんともしっかりとコミュニケーションを図りながら、透明性のある公平公正で健全な施設運営に対して共通の認識を持ち、あゆみが丘学園全体が一つとなって協力・連携をしながら、適切な学園運営を進めていかなければならないと思っております。

浅学非才の私に対しましては心からのご指導ご鞭撻を申し上げますとともに、あゆみが丘学園に対しましても暖かいご理解ご協力をお願いいたします。

華頂短期大学 池部 博美

十日間の実習を終え、私の中で大きく変わったことがあります。それは、障がいを持つた方との関わり方です。今までは自分の中のイメージによりどの様に関われば良いのか分かりませんでした。しかし、実習をし、自然に何も構えず関わればよいのだということが分かりました。ありのままの自分で関われば、相手もそれに答えてくれるし、何より、逆に沢山話しかけてもらったことにより、私自身がとても楽しい実習になりました。そして、施設には様々な障がいを持つ方がおられ直接の関わりを通して、それぞれの障がいについての知識を沢山吸収することができました。

十日間という長いようで短かった実習でしたが、その中で得たことは、入所者の方々の思い出や、障がいに対する考え方の変化、知識と沢山あります。この実習で得たことを今後活かしていけたらと思います。十日間ありがとうございました。

**実習を終えて**

この四半期もたくさん  
華頂短期大学の学生さんに  
福祉実習に来て頂きました。  
その感想の一端を御披露  
します。



華頂短期大学 張野 友美

十日間という短い間でしたが、考えが変わり、大きく成長できた自身の濃い実習でした。障がい者の方と一緒に考えていましたが、一人一人の方と関わり、皆それぞれの個性があり関わり方があり、とてもおもしろかったです。あゆみが丘学園では、入所者の皆が普段の生活や作業の中で、自分出来ることは自分ですることや、自分にあったことをするなど、個人でも頑張っている、集団生活の場なので協力もして、とても良い

# お知らせ

《お願い》  
◎4月から古紙回収新聞雑誌・ダンボールに大宮第三小学校区の各集落を第1・第3木曜日、午前中巡回しています。ご協力下さい。

## 《新職員》

- ◎石河(イシ)コ良一郎さんに4月より久しく空席だった事務長をお世話になっていきます。
- ◎山口暢康(ノブヤス)さんに4月よりまつのきホーム・B班の担当をお世話になっていきます。
- ◎藤村文美(アヤミ)さんに4月よりかえでホーム・C班の担当をお世話になっていきます。
- ◎中村朋子さんに4月16日より調理員をお世話になります。

## 《職員異動》

- ◎上羽行直さんが3月から指導主任しらかばホーム担当より更生部長になりました。
- ◎谷口宗浩さんが4月からわかたけホーム担当より指導主任しらかばホーム担当になりました。
- ◎永岡宏文さんが4月からすみれホーム担当よりわかたけホーム担当になりました。
- ◎牧野武範さんが4月からまつのきホーム担当よりすみれホーム担当になりました。

## 《退職者》

- ◎高野一夫さんが3月末日をもって退職されました。
- ※25年の長きにわたりお世話になりました。御苦勞さまでした。

雰囲気でした。職員の方々ととても良い関係で、私も楽しい気持ちになりました。

今回の実習で出会えた人たちは皆優しく、本当にあゆみが丘学園に行けて良かったです。この経験がいけると良いと思います。

華頂短期大学 矢谷 友紀

10日間、実習をさせていただいて、本当にありがとうございました。最初は、入所者に対しての恐怖や、障がいに対する偏見など、不安でいっぱいでした。仕事内容についても、援助の仕方や入所者とのコミュニケーションのとり方、何もかも分からず迷惑ばかりかかってしまいました。それでも、職員の方々、入所者のみなさんはとても優しく、とても温かい環境で実習ができました。職員の方々はユーモアのある方ばかりです。楽しくかつ、入所者はひとりひとり良いところがあつたり、一生懸命いろいろなことに取り組む姿勢があり、私も頑張ろうと元気づけられました。

華頂短期大学 野久保 綾彩

私にとつてのあゆみが丘学園での十日間の実習は、とても充実したもので、本当にあつたという間に思えました。毎日が新鮮で、新たな発見をたくさんすることができました。初めてこの園に来た時、入所者の方が歓迎してくださり、とても嬉しかったのをはつきり覚えてます。初めはすごく緊張もしており、皆さんと仲良くなれるか不安でしたが、あゆみが丘学園の皆さんは明るく話しかけてくださり、すぐに緊張もなくなりました。あゆみが丘学園は、とてもおびのびとした雰囲気、入所者の方も職員の方も明るい方ばかりで、楽しく実習させていただくことができました。また、実習を通して、施設に対する考え方も大きく変わりました。学園の皆さんと関わることで、私自身たくさん元気をいただくことができました。あゆみが丘学園で実習することができて、本当に良かったです。



# 事務だより

平成二十一年十二月一日

平成二十二年三月三十一日(敬称略)

**【寄贈】** コマキデンキ、アシダインテリア、山岡義信、吉岡勇治、大野世嗣、臼井喜治、いととめイトト店、京丹後市シルバー人材センター、吉岡美和、大宮中学校、野村芳昭、中尾文雄

**【寄附】** 保護者会

## リサイクル作業



「アルミ缶・銅線・ベルマーク」古紙回収  
ご協力ください

平成二十一年十二月一日  
平成二十二年三月三十一日(敬称略)

安達電気、安達陽一、明田地区の皆さん、芦田梢恵、安達酒店、網野町観光協会、池田勝信、五十河地区の皆さん、五十嵐商店、生野電気、井丈商店、今西洋服店、井上五朗、稲岡靖子、芋野地区の皆さん、糸井泉、石河(有)、糸井初美、いととめ・E・A・T店、和泉登喜雄、和泉秀雄、井野建設、井上義昭、今井好子、今井久男、梅田歯科医院、梅田辰行、梅田高志、梅田徳五郎、上田ひとみ、えびす電気工事店、エナジールランド大宮、エルクラブ・オオミヤ、岡島三協

製作所、オギノ電機、萩野志功、尾江充洋、大江純一、大江仙治、大木熙一、岡田喜美子、大宮南保育所、大宮第三小学校、奥田務、おしほり店、田村、岡田福治、岡田嘉則、大江モーターズ、大河一夫、大西勲、大西一子、金子産業(株)、柿本春恵、勝岡修、河島食料品店、川村義一、菊岡義和、木崎弥生、喫茶、お茶のみ友だち、京キユウ、楠田電気、口大野保育所、(株)興和、小牧英次郎、小池食料品店、河野哲朗、小笹ふさ子、小克酒店、後藤鉄工所、小牧功、コマキデンキ、小牧義正、米トウタイ、小林秀樹、小西デンキ、サニーアイランド、山翠園、笹岡昭義、笹岡儀和、佐藤勝、柴原商店、下川源太、四方秀夫、シルクロード、シラキ、白杉寅雄、獅子崎益二、尉ヶ畑の皆さん、城下克明、諏訪部英美子、諏訪部秀雄、末次電気商会、隅倉住建、大道菓子店、館保弘、大同宏子、大同政守、大同敏剛、田上住与、田崎書店、田中博久、田中恵、谷口廣谷次義則、玉木明司、田村ます美、壇野一義、丹後自動車整備工場、玉岡商店、丹後生糸、辻翔平・香奈、でんき館やました、豊田定夫、藤右衛門、冨田建築、中江美晴、中尾文雄、長尾道雄、中川貞治、中川利昭、永島清一郎、永濱功、中村保徳、中村しんや、永井清志、新田良文、西田建設、橋本耕二郎、番場電気商会、服部仁、萩原誠、畑中酒店、日達利雄、平井建材、平林かよ子、平林善一、平井電気、広野清孝、フルーツ王国やさか、フリーク、堀鉄工所、堀敏雄、堀保彦、堀義行、ホリロク(株)、

ベスト電気、増鍊工業(株)、まるぜん書店、野田川店・加悦店、マジカル、丸中観光バス、松崎幹二、水口進、水口組、宮尾倍行、三浦艶子、三重地区の皆さん、峰山鉄工所、椋平登美江、森重俊、森岡伸行、森本地区の皆さん、山下初乃、山中信子、山本敏彦、山本京子、ヤマモト電化サービス、矢野一城、矢野宇一、矢野幸子、矢野辰雄、矢野博、由利徳七、由利家電サービス、吉田電気工業、義村商店、由村明人、横田悦子、吉岡設備(株)、吉岡電気商会、吉岡典子、吉沢地区の皆さん、吉岡商店、吉村食料品店、(株)ローソン

個人情報保護法制定に伴いお世話になった方々の地区名は遠慮させていただきました。

### 編集後記

三寒四温という言葉の通りに、春といふここ数ヶ月の間待ちに待ち、望みに望んだものは、希望するようにはすんなりと到来してくれないものようです。寒暖を繰り返して、徐々にではあるが確実にやってくるものだと、うごとを今年も改めて実感しています。右肩上がりではない不確実性がある故に、春爛漫と形容される咲き乱れる桜花が生命の乱舞にも似てより一層いとおしく思われるのかもしれない。世の習いも行きつ戻りつして留まることがないと言ったのは兼好法師でしたが、不確実性の増した福祉の大海の中で、坂の上にある希望という雲を見据えて今年度も次の四半世紀の第一歩を藤村施設長の下で、新更生部長上羽、新事務長石河を迎えて刻みたいと思います。